

図書館活動の今日的な課題

その機能・役割と経営の樹立に向けて

習志野市立図書館長
河野 清一

平成16年 7月14日 習志野高校「図書館」研修

図書館概論

- ◆ 公共図書館概要
- ◆ 図書館活動を戦略的に考える
- ◆ 図書館運営(経営)の視点
- ◆ 図書館活動の将来
- ◆ 図書館の活用教育
- ◆ 学校図書館との連携

習志野市図書館の状況

- ◆ 図書館の利用案内、条例・規則
- ◆ 図書館業務の流れ
- ◆ 出冊数貸の推移
- ◆ 蔵書冊数の推移
- ◆ 登録者数の推移
- ◆ 図書館資料費
- ◆ 19年度予算・18年度決算
- ◆ 図書館の歩み
- ◆ コンピュータシステム構成図
- ◆ 読書活動推進計画の概要

平成19年度図書館運営

- ◆ 図書館指標データ(県内)
- ◆ 運営方針(ミッションと戦略)
- ◆ 運営計画(経営計画として)
- ◆ 職員配置計画(効率的な配置)
- ◆ 協働化(公共・公益活動)
- ◆ 平成19年度、事業推進

公共施設事業戦略

実態把握		評価	戦略
修繕費 光熱水費 維持管理委託費	施設にかかるコスト	図書館	資料貸出 情報・レファレンス・事業活
人件費 業務委託費 その他物件費	事業運営にかかるコスト	公民館 C・C その他施設	施設提供 事業活動 施設提供 サービス 事業活動の振興・充実 コミュニティ活動の振興 サービスの充実
トータルコストの把握		運営状況の把握	経営視点の樹立

図書館活動戦略

学習情報ネットワークに組み込まれた図書館構想を樹立する

従来の資料貸出業務に加え、
情報レファレンス、学習支援事業へ
業務活動を変化させていく。

新しい学習情報ネットワーク構想

- ◆ 学習情報センターの機能
- ◆ 学習情報ネットワーク構想
- ◆ 新しい生涯学習
- ◆ 社会教育の今後

指定管理者制度導入について

- ◆ トリプルウインのしくみ
- ◆ 導入計画(法人化計画)
- ◆ 民間団体支援システムの樹立
- ◆ プロジェクトマネジメント
- ◆ 民間活力導入プラン(PPP)

——図書館改革——今、公立図書館が 標的になっている、なぜ？

- 1) 自治体政策の中で
地方分権—>行政改革・財政再建—>NPM
(業務の委託化、PFI事業の導入、指定管理者制度の導入等)
- 2) 著作権、複本問題等で
著作権協会 文芸家協会などから図書の無料貸し出しが
著作者の経済的な損失、圧迫である(公貸権)。
- 3) 図書館利用者と図書館の関係変化と評価において
・図書館活動は、さまざまな市民運動を経験してきた
・図書館にもボランティアが台頭してきた
・住民参加による活動として推進されてきた
- 4) 時代変化への対応、図書館将来像、展望の明確化
——>いまは、**図書館のあり方・運営に係る問題**として
クローズアップしてきたのである

社会変化・発展の中に図書館機能 ・役割等を位置付けてみると

転換期の図書館という「歴史認識」が重要である＝評価に基づく将来展望

国際化、情報化の著しい進展

少子化、高齢化の進展

地域社会の著しい変貌

さまざまな環境変化の中で

人々の生活意識や行動の仕方が変化してきた

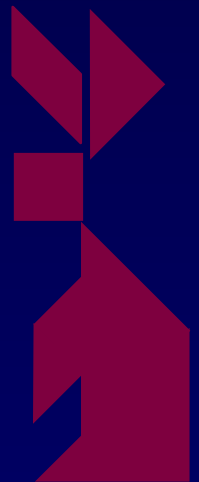


図書館の機能・役割、利用の仕方、運営等
に明確な変化がみえてくる

また、図書館の利用者構造、 利用者行動の変化からも、

年々、図書館資料、利用者数は増えていますが、近年では

- ◆ 子ども・主婦 ——> 大人・高齢者
(男性、一般成人の利用者への広がり、厚みが出てきた)
——> 多様な人が図書館にかかわりだした
(NPO、ボランティアの台頭 多様な
キャリアを持つ男性の増加がめだつ)
- ◆ 図書資料の「読書利用」から
——> 「情報活用」(調べる)へ変化してきた



改めて、図書館が育ってきたという 評価をし、新しい展望をひらこう

- ◆ いまや図書館が市民の日常生活において、なくてはならないものになってきたこと。
- ◆ 実際、図書館は時代にあった役割、サービスをしているか、検証が重要
- ◆ いまは、図書館のあり方、運営にかかわる重要な時、変革の好機ととらえることが重要である。
- ◆ 時代にあった起業を、そしてサービスを創出しよう

改めて問われた「図書館の公共性」と「図書館のあり方」

図書館法の基本原理、基本理念などを現代的な視点で再評価、再構築してみよう

- ・ 図書館奉仕： サービス——>市民の知る権利の保障
権利に奉仕

するということ

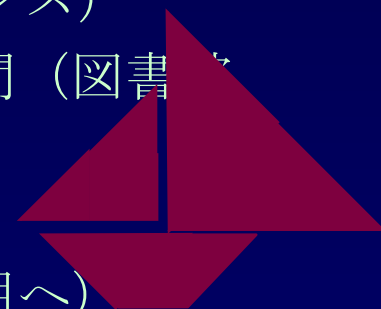
- ・ 専門職の規定： あいまいになってきた、司書・図書館長の専門性は重要だが、新たに専門職としての付加価値化が重要になる（情報処理技術、経営センス）

- ・ 地方自治： 自治体の責任と運営（分権）から民間（図書館協議会等）との協働化、パートナーシップ事業へ

- ・ 市場性の導入等により、運営の経営化、???

- ・ 行政の条件整備義務（規制緩和、民間のノウハウ活用へ）

- ・ 「図書館の自由」（日本図書館協会1979年改定）の重要性

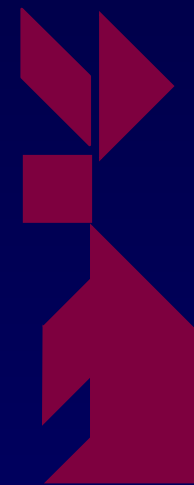


改めて問われだした

図書館の公共性と図書館のあり方

したがって

- ・ 図書館行政の実践的評価や、
 - ・ 市民の図書館活動の評価、
 - ・ 時代に対応する新たなサービスの展開に基づく、
 - ・ 情報戦略的な図書館経営の樹立が
- 重要課題になってきた



行政政策が変化している

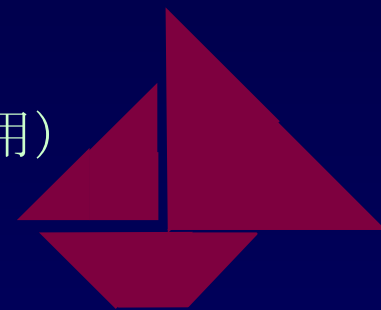
構造改革政策は、—>公共活動の市場化を

(官製市場が全面的に民間市場へ開放

アウトソーシング、P F I の導入、民間活力の活用)

地方分権、政策を推進するため、自治法の改正、規制緩和等がなされた

- 公共施設の管理委託 (指定管理者制度、民間活用)
公共団体から民間の営利 (非営利) 団体へ
P F I という公共事業の手法
- 図書館の経営樹立 (自立・自己責任)
ネットワーク、情報化に対応する独自のシステムの樹立
決定は自治体の裁量



では、「図書館政策」は どう変化したか？

図書館員の働き方が変貌してきた

I T化（情報機器の普及）による変化（事務処理の電算化）
サービス（顧客満足）や仕事のあり方（I T活用）等による変化

公務員制度にNPMの考えが導入される

市場原理型の行政運営の手法として

成果主義

競争原理

コスト指向

顧客志向サービスの展開

職員数の削減

PPP的事業化（Public
Partnerships）

Private

公共図書館の現代的な理念の再構築と 図書館のあり方について研究しよう ！

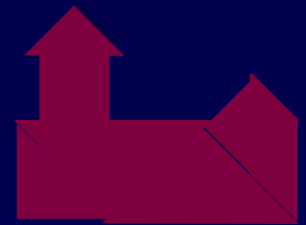
公共図書館の「基本的なあり方」としては

- ・国民の知る権利、読む権利の保障をすること
- ・図書館を「ひろば」と空間的にとらえ、
- ・図書館は知る権利を保障するポータルサイト（窓口）
- ・Webサイトは情報を手繰り寄せる窓口（コンテンツ）
- ・居場所と憩いの空間（憩い・安らぎ）とする
- ・人と人の関係をつくる空間とする（コミュニティ）
- ・図書館の課題化をはかる（ミッション・戦略化）
- ・ビジネス等への支援（調べ学習・レファレンスの充実）
- ・御用聞きをする（住民の満足度を高めるサービス改善）
- ・情報デバイトの解消を図る（情報リテラシー等）

将来の「図書館制度と図書館経営」 の再構築をめざそう！！

(課題)

- ・ 目標を定め、効率的、効果的な経営の樹立をめざす
経営理念、ミッションの再構築、技術の革新を
ハードウェア・ソフトウェア・ヒューマンウェア
推進戦略を樹立する
 - 資料の新鮮整備・充実策
 - サービスの充実・向上策（窓口サービス）
 - 生涯学習、ボランティア活動の支援策
 - 生涯学習、協働化の研究、推進策
- ・ ステークホルダーとのコミュニケーション（相互関係）を通し、
計画化・ドラフト・スケジュールを明確にする
- ・ 行政の協力体制、県立図書館等の協力・差別化、**他市相互協力体制**



==新しい図書館== 情報のネット・ワーク化

公立図書館のサービス課題は、

閲覧＋貸出＋文化活動（ビジネス支援、児童、障害者、多文化サービス等）でとどまっている

次の課題は何か、「電子化の課題」と一緒にきている。

情報ネットワークの時代

「情報ハブとしての図書館の新しい役割」（2005）
について研究する必要があるのでは、、、。

インターネットの効用を考える

図書館の専門性を訴える最大のチャンス！
でもある。

どの公共機関よりインパクトは、**大きい**。

情報提供機能（情報発信）として

広報手段として

情報検索として

情報発信（ドキュメントデリバリー）

いまや、インターネットを使用した 図書館サービスの展開は、普通に

考えられる例 (WEBアプリケーション)

- 1、館内業務 (検索・予約サービス等) で利用
- 2、 Web ページで情報の発信
 - ドキュメントコンテンツの公開
 - ツール開発 (オリジナリティ)
 - 広報、資料、相談 (レファレンス) 機能など
- 3、インターネット接続 PC の利用者への開放
- 4、利用者持込 PC の接続環境の提供
- 5、商用 DB へのアクセス提供
- 6、館内 DB の作成と外部への提供
- 7、一時資料の外部発信

Webの内容構成（コンテンツ） について、

図書館活動の情報ポータルサイトとして

利用案内

所蔵目録検索

予約機能

横断検索

借受状態の確認

レファレンス活用

お知らせ、館報

事業、報告、統計資料

ボランティアとの協働活動

掲示板

リンク

新しい図書館構想について

新しい図書館構想の構築にむけて

「これからの図書館像・構想」(2006)

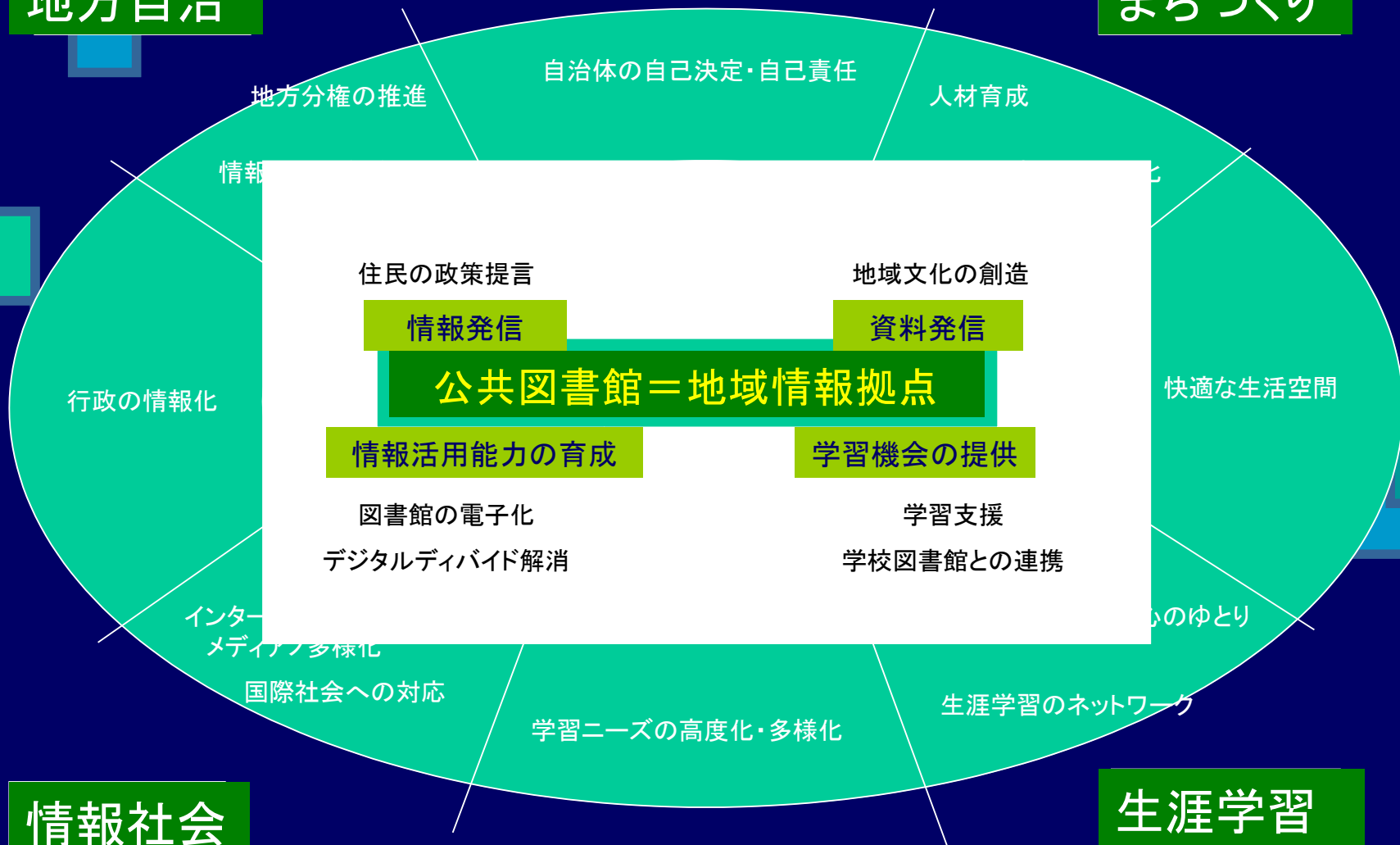
が必要！

- ◆ 情報ハブとしての図書館(2005)
- ◆ 地域課題解決型の図書館(2006)

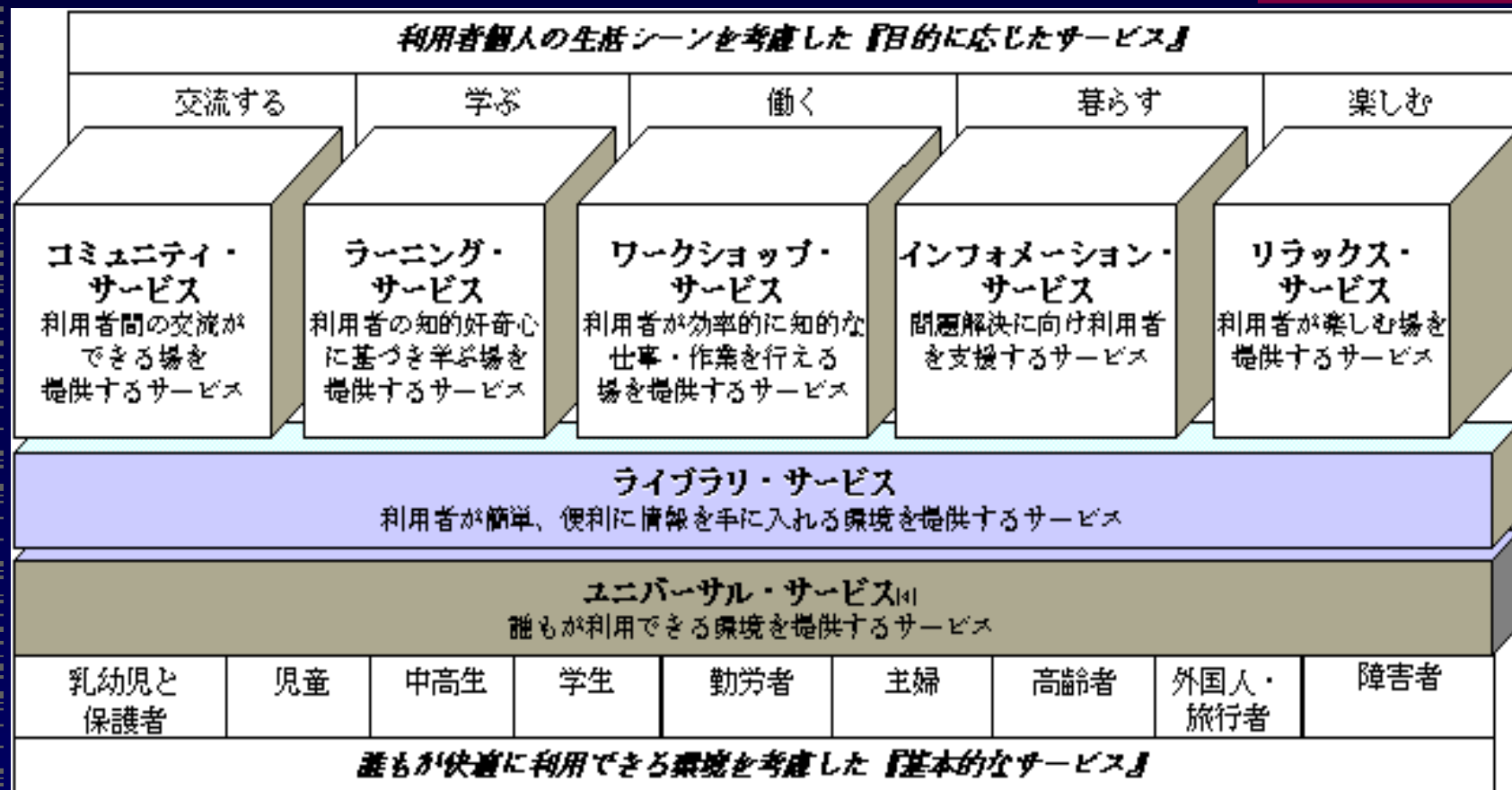
地域に広がる「公共図書館 ＝ 地域情報拠点」の可能性

地方自治

まちづくり



==地域サービス==



これからの図書館構想

==住民の調べ学習を主体とした
資料の付加価値化を図る==

- ◆ 現状ではレファレンスサービスの利用が定着していない、レファレンス普及の工夫、システム化の研究をする
- ◆ 課題解決支援機能充実のため、コンテンツを作成し、情報の付加価値を高める
- ◆ 紙＋電子 媒体をあわせたハイブリット図書館を目指す
- ◆ 学校や行政、または各種団体との連携により、民間にはできない付加価値を生み出す
- ◆ 従来の貸出重視から、館内閲覧、遠隔閲覧など資料利用の総量を増やす
- ◆ 様々な情報タイプを組み合わせた資料選定を行い
- ◆ 地域の課題を解決し、自立できる住民を育てる道筋をつける

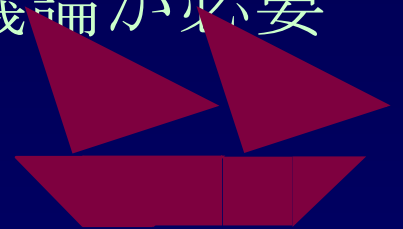
==地域を支える情報拠点をめざして==

- ◆ レファレンスサービスの樹立
- ◆ 図書館の雰囲気を変える
- ◆ 実利用者を増加させ、満足度を挙げる
- ◆ 地域支援サービス具体化
- ◆ 図書館経営の樹立
- ◆ 職員研修
- ◆ インターネットパソコンの設置、フィルタリング
- ◆ 予算の根拠、資料収集計画
- ◆ 有料データベースの利用
- ◆ 利用者講座、研修
- ◆ ハイブリット図書館づくり

そして、図書館と住民の新たな 関係性の再構築に向けて

(課題)

- ・ 住民とどういう関係性をつくっていくか
「当事者意識」で
NPO、ボランティア組織との協働関係と位置付ける
- ・ 市民の要望を取り入れる仕組みをつくる
協働形態の住民参加システムの構築
図書館協議会の設置、活用（運営の民主化）
- ・ 情報公開と新たな図書館構想の議論が必要
パブリックコメント制度



プレゼンのまとめ

- ① 図書館が直面している危機を明らかにし、それを打開するための戦略を述べ
- ② 様々な形で提案されてきた図書館改革論を体系的に整理し、図書館改革の具体的なイメージを提案した。

プレゼンの特徴

- ① 自治体、図書館の職員、地域の住民に図書館の改革への協力と利用を呼びかけ、開かれた議論の場を作る
- ② 変化する社会の動きをもとに、図書館の役割として、従来の読書のための資料提供に加え、地域の課題解決を支援するための情報発信・提供、「調べ学習」の支援を提案
- ③ 図書館は、印刷資料とインターネット上の電子資料など様々な情報を提供し、その利用方法を図書館の職員が案内する
- ④ これまでの図書館活動の発展を的確に評価し、レファレンスサービスが不十分であったことを認め、図書館法の趣旨を再認識し、その実現を提起する。
- ⑤ 規模の小さい図書館や資源の少ない図書館も段階的に改革ができる

今後目指すべき5点

- ① 本が中心の図書館から雑誌記事、新聞記事、インターネット上の電子情報、地域のチラシ・パンフレット等多様な資料の提供・情報発信。関係機関と連携し各種の講座やセミナーを開催していく
- ② 相談デスクを設置し担当者を配し、レファレンスサービスを充実させる。IT技術を駆使し、データベースの検索、WEBサイトによる情報発信を工夫して行う
- ③ 地域の様々な人々を対象とする課題解決のためのサービスを体系化して展開する
- ④ これらのサービスを図書館単独でなく地域の行政機関や民間団体と連携し、資源を相互利用し、効率化を図る。
- ⑤ 専門職員の効率的な配置により生産性の向上を徹底し、職員の意識改革、研修を行う

地域を支える図書館の効果

- ◆ このような図書館になれば、地域の人々や組織は必要な情報を迅速かつ的確に入手でき、学習や調査研究が効率的に行うことができる。
- ◆ 適切な状況判断や意思決定が行われ、地域社会の様々な課題解決、改革や振興に役立つ。
- ◆ このようなサービスによって、図書館は豊かな地域社会の創造に貢献できる。

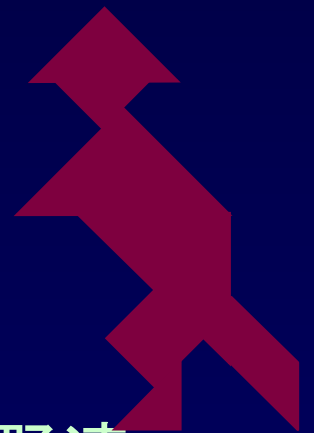
まとめとして

- ・ 図書館を新たにはじめるという起業発想で
 - ・ 自治体の理事者（経営者）を含め、意識的に図書館の支持基盤を戦略的につくっていくこと、
 - そして、当然ながら、
 - ・ 図書館の専門的な力量をあげ、図書館同士、地域住民が連帯し、研究し、協議したりする場をつくり（学習）、
 - ・ 行政と住民との連携、協力、協働により
 - ・ 地域に図書館活動の環境・集団（主体）を形成していく。
- （主体の支援・活動方法・成果の共有）＝プレゼン
これが**図書館を未来に発展、変えていく力**になる

END

本日は、お疲れ様でした。

習志野市立図書館 河野清一



ビデオでもご覧ください

谷津干潟の生態

谷津干潟

ヘラシギ飛来